

とう 闘 か 華

発行:ユニオン東京合同
 発行人:佐藤陽治
 東京都千代田区三崎町2-17-8 皆川ビル301
 TEL&FAX 03-3262-4440
 メール info@union-tg.org
 ブログ <http://blog.union-tg.org/>
 ホームページ <http://www.union-tg.org/>
 郵便振替 00110-8-120661

号
外

年頭に想う

ユニオン東京合同 執行委員長 佐藤陽治

世界はいま50年あるいは100年に一度といわれる事態・世界恐慌のまっただ中にある。

とりわけ日本では昨年からの派遣・請負など不安定雇用労働者の解雇・住いの喪失という事態が数万人という規模で開始された。今年も正規労働者の解雇が大量に始まろうとしている。また日本では戦後ほぼ一貫して日本を支配してきた保守政党が、今年の衆院選挙では、【公明党含めて少数派】となる情勢が進んでいる。民主党が受け皿では、ということもあるが、これは政治的危機である。

昨年12月31日付日本経済新聞によると、昨年主要国で株価の下落額が2900兆ドルと推計している。このうちロシアの71.9%の下落、中国・上海の65.2%の下落、つづいてインドなど外需依存度の高い新興国がつづく。日本は42%で中位である。経済危機の大もととなったアメリカは36%と、株価下落率は低い方の国に位置している。かつてからの帝国主義国である。株式制度は資本主義の骨格である。

こうした事態の中で日本の労働者はどのように闘うのか。

60年闘争とは何であったか

1960年、国会では日米安保条約の改訂・国会での採決強行をめぐる、国会周辺は連日労働者、市民、農民などが数10万人のデモ隊で埋めつくされた。6月23日には、当時の総評、中立労連傘下の労働組合111組合620万人の労働者が全国でストライキに参加した。

国会周辺では、全学連の学生が万単位で国会につめかけて、2度にわたって国会構内に突入した。

逆にこの頃から右翼団体・暴力団が公然と自民党と一緒に国会の傍聴席を埋め尽くし、また5寸釘を打ち抜いた角材でデモ隊に襲いかかる。数万の警察官も導入され、国会周辺は騒然とした状態がつづいた。

他方、1955年ごろから日本の経済は高度経済成長をつづけた。重化学工業化が進められ、エネルギーが石炭から石油への転換が進められていた。労働者の大量解雇が進められていた。中小の炭鉱が相次いで閉鎖された。

そうした中で福岡県の三井三池炭坑の合理化をめぐる闘いが、約1年にわたって闘いつづけられた。資本は御用二組をスキャップとして養成し、連日1万をこえる警察官を配置し右翼も公然と暴力をもって介入した。

「総労働と総資本の対決」として、労働側も当時の総評が全力で支援体制をとり、数10万人を現地に派遣した。全学連の学生も参加し、連日で現場での血みどろれの攻防がつづいた。一人の労働者が撲殺され、負傷者は数えきれないほど続出した。最終的には、中労委藤林会長のあっせん案を組合がのみ、闘争は敗北した。これを転換に総評の民間部門は反合闘争はしなくなった。

上記2つの闘いは共に敗北したものの、政治闘争と労働争議が大規模かつ、長期にわたって実力闘争として闘いつづけてきた渦中に、若い学生・労働者のはしくれとして参加できたことを私は年頭に思い起した。

今年のがが労組の闘い

ユニオン東京合同は、ほんのチツポケな合同労組だが、気概だけは意気高く2009年も全国の闘う労働者・学生・農民・市民などと共に闘っていきたい。

ブリタニカ闘争と、育成会の主たる闘いを軸にして、組織拡大をはじめ大会で決議された方針をもとに闘いつづけていく方針だ。

とくに育成会闘争では、組合始まって以来のストライキを貫徹した。史上最悪の就業規則の12月1日強行実施に、多くの支援者の参加をえて闘った。受けた支援は闘いで返さなければならない。

スト打てば終わりではない。育成会事務局内部の力関係の転換を、当該労働者が毎日、毎日闘いつづけなければならない。既得権を守り、新しい就業規則を無力化する闘いがこれから長期にわたって地道に続けていくことが、今年の育成会分会の課題だ。

闘 春 川 柳

- あ 「逢わず」とも 言うこと読める 団交日
(「粟津」団交員が言うことは毎回同じ)
頭から 腐るは法人 成れの果て
(育成会理事会の運動的変質・就業規則の改悪)
明日から 「来なくていい」と 職制が (「派遣切り」)
- い 「生きさせろ」 我慢の限界 突き破る
(森精機の派遣労働者)
- う 上向けた マイクで声が 響き往く
(ブリタニカ社前、スピーカーを2階に向けて)
- え 偉そうに 駄々捏ねてみる 雇われ士
(団交団の雇われ弁護士)
- お 「奥に」まで 届けマイクの 声限り
(ブリタニカ社前、「奥井」社長にまで届くように)
追いかけて 逃げるものなら シカゴまで
(ブリタニカのシカゴ本社闘争)
- か 隠しても 時間の問題 誤送信
(育成会副理事長がミスクリックで誤送信を1ヶ月隠蔽)
「革命」の 2文字今こそ 輝やけり (現実感)
- き 奇跡的 朝の挨拶 7年目
(ブリタニカ奥井社長に7年ぶりに対面)
- く 組合も はじめてばかりの 例作る
(前例のない体験多かった)
- け 経営の 指南は弁護士 任せきり
- こ こそこそと 団交前に 遁走し
(団交前になると居なくなる育成会理事長・常務理事)
- さ 最初だけ あたりまえの 団交し
(団交拒否以後はまともな団交に程遠い)
寒空に 放り出しても 生きてやる
(「派遣切り」に「生きさせろ！ゼネスト」を)
- し しっかりと その手に持たせた 申し入れ
(ブリタニカ奥井社長の手に団交申し入れ書を手渡す)
証人の 記憶を起すに 四苦八苦
(労働委員会、代理人の苦勞)
障害を 理由に解雇の 規則なり
(就業規則に差別条項新設)
- す 隙間から 声は聞こえる 隠れ理事
(育成会の常務理事や副理事長は居留守好き)
- せ 「席立つな」 急ぎ立てられて 咳ひとつ
(全国総会 松田常任)
前夜には パワハラ電話 かけてくる
(ストライキ前夜に事務局長が不当労働行為の電話)
- そ そっぽ向き 右側だけと 打ち合わせ
(育成会事件の東京都労働委員会・公益委員)
- た 堪らずに 黙りこくるは たまでない
(いつも 都合が悪くなると黙って過ごそうとする団交団)
大企業 揃って派遣の 怒り買い(「派遣切り」)
- ち 陳述書 締め切りすぎてても 書き直し
(労働委員会に提出の期限)
- つ つい、ぼろり 辻褃合わなく なるセリフ
(法人の本音が隠しきれない不当労働行為発言)
- て 伝統の 話し合いやめ 全部反故
(これまでは話し合うことで労使が対処してきたが破棄通告)
- と 都庁前 ちゃぶ台返しに ピラを撒き
(労働委員会弾劾)
- な 名ばかりの 「長」がつくのは 何人か
(本来の職責不履行の理事「長」・事務局「長」)
- に 逃げるなら 追いかけてみる シカゴまで
(ブリタニカのシカゴ本社闘争)
- ぬ ぬかりなく 辻褃合わすが 代理人
(労働委員会での代理人の苦勞)
- ね 寝たふりを してても締める タイミング(会議や団交で委員長)
ネトウヨの 憎しみ受けても 消火せり(ブログ炎上一步手前)
- の のんびりと 回答待つと 知らぬ顔(育成会 要求に無回答)
- は パワハラを 無くすどころか またハラス
(パワハラを無くすための特別監査のはずがパワハラ全開)
- ひ 人の名に ちなんだわけで ないけれど
(「ストライキ決行中」グッズは三角柱、副委員長は三角忠)
筆頭の 労務になった 人のはず
(育成会の「労務担当筆頭」理事は自分が筆頭であることを否定)
- ふ ふたりして 団交前に いなくなる
(団交直前に居なくなる育成会理事長・常務理事)
- へ 編集の 前に出来てる 後記かな
(編集後記が先にできている機関誌・闘華)
- ほ 歩行者の 足をとめさず 決め台詞
(イベント情宣「障害を理由に解雇するな」)
- ま 「またですか」「いや今回は 別の件」
(育成会のことで何度も三田労基)
- み 三田労基 誰でも知ってる 育成会
(育成会のことで何度も三田労基、職員にお馴染み)
- む 無理承知 違反もご存知 労基法
(1条 に違反、法人は労基法基準を理由に改悪)
- め メール撒き 支援の撤布 舞いこめり
(ストライキ支援要請のメールに応じて撤布が寄せられた)
- も もう二度と 労使正常 ありえぬか
- や やたらすぐ 席立ちたがる 経営陣 (「もう帰らなければ」)
雇い止め 抑えきれない 憤り (派遣労働者)
- ゆ 湯気立ちぬ 団結つながら 腕固し (6.29闘争)
- よ 擁護する はずの権利を 全部捨て
(「全日本手をつなぐ育成会」は、知的障害者「権利擁護団体」)
- ら 乱脈も 掘り起こしもあり 帳簿付け (育成会の経理)
- り リエゾンの 埃かぶった 残業簿
(労基の臨検直前に育成会の書類を法政大学リエゾンから移動)
- る ルール決め 自分は守らぬ 労務かな
(押し付けの「団交ルール」を自分たちは守らない法人団交団)
- れ レコーダー 止めてください しか、言わぬ (ブリタニカ団交員)
- ろ 労側の くせに使側の 肩を持ち (労働委員会)
録音の 声が翌日 文字になり (団交の録音起し)
- わ わくわくと 気持ちはいひとつの グッズ持ち
(「ストライキ決行中」のグッズ)